

brother

ボビンワークセット 取扱説明書



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

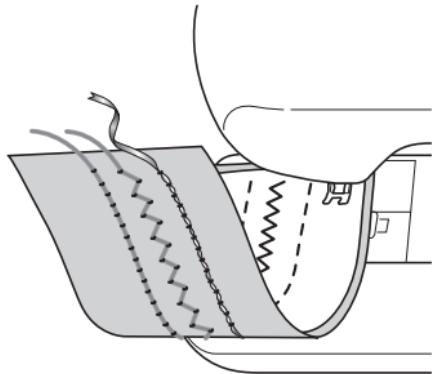
本書ではボビンワークの手順を紹介します。ミシンの操作に関しては、お手持ちのミシンの取扱説明書をご覧ください。本書で使用しているミシンのイラストや模様はイメージです。実際と異なることがありますので、あらかじめご了承ください。

目次

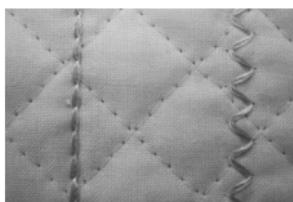
ボビンワークとは	2
付属品の確認	3
ボビンワークの準備	3
準備するもの	3
上糸を通す	6
下糸の準備	6
ボビンワークでぬう	13
布地を準備してぬう	13
糸の始末をする	17
ボビンワークをフリーモーションでぬう	18
フリーモーション用テンプレート一覧	20
糸調子を調整する	22
上糸の糸調子を調節する	22
下糸の糸調子を調節する	22
困ったときは	24

ボビンワークとは

針穴に通すことができない太い糸やリボンをボビンに巻いて、布の裏側を上にしてぬうことにより、布の表側に立体感のあるぬい目を作ります。付属のボビンワーク専用の内かま（灰色）とタブ付き針板ふたを使用してください。



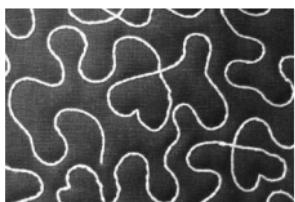
実用ぬい



飾りぬい
(飾り模様内蔵
ミシンのみ)



フリーモーション



※ 刺しゅう機能が搭載されたミシンを使用している場合は、本製品を刺しゅう時に使用しないでください。

付属品の確認

1.



内かま（灰色）

2.



タブ付き針板ふた（二種類※）

3.



マイナスドライバー（小）

4.



CD-ROM（取扱説明書、フリーモーション用テンプレートデータ収録）

※ お手持ちのミシンに付属の針板ふたと同じ形のタブ付き針板ふたを使用してください。ミシン付属の針板ふたと形が異なる針板ふたはミシンに取り付けることができません。

ボビンワークの準備

準備するもの

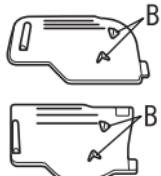
■ 内かまと針板ふた



A

内かま（灰色）

ボビンワーク専用。針穴に通すことができない太い糸やリボンを下糸に使って、ぬうことができます。Aで示した場所に、ミゾがあります。



B

タブ付き針板ふた（ボビンワーク用）

裏側に、Bで示した突起（タブ）があります。太い糸が巻かれたボビンは、縫製中、浮き上がりやすいため、針板ふたの突起がボビンを押さえつけて、浮き上がりを防ぎます。この針板ふたはボビンワークをしないときも使用できます。

■ 下糸

ボビンワークには、以下のような糸の使用を推奨します。



刺しゅう用手ぬい
糸 5 番
または、それより
細い糸および飾り
糸



薄い刺しゅう用リ
ボン（シルク、シ
ルクのような素材）
(3.5 mm 以下推
奨)



やわらかく、織り
のあるリボン
(約 2 mm 推奨)

※ リボンを使用する場合は、下糸テン
ションフリーを推奨します。p.10
「下糸テンションフリーにする場合」
を参照してください。



お願い

- 5番より太い刺しゅう糸は使用しないでください。
- ボビンワークに適さない糸もあります。実際の布地と糸を使用して試し
ぬいをしてください。

■ 上糸

ミシン刺しゅう糸（ポリエステル系）、ナイロン透明糸

※ 上糸をめだたせたくない場合は、下糸と同系色のミシン刺しゅう糸（ポリエス
テル系）かナイロン透明糸を推奨します。

■ 針

上糸・布に応じて、適した針を使用します。詳しくは、ミシンの取扱説
明書を参照してください。

■ 押え

実用ぬい、飾りぬい：模様ぬい抑え <N>



お願い

- お手持ちのミシンに模様ぬい抑え <N> が付属されていない場合、ジグザグ押え <J> をご使用ください。
- ミシンの取扱説明書で、模様ぬい抑え <N> の使用を推奨している模様をぬう場合は、模様ぬい抑え <N> を使用してください。異なる押さえを使用すると、きれいに仕上がりないことがあります。

フリーモーションぬい：ミシン付属のキルト押さえを使用してください。キルト押さえをお持ちでない場合、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）0120-340-233」にお問い合わせください。



キルト押さえ



オープントゥ
キルト押さえ

■ 布地

実際に使用する布地と糸で、試しひいをしてください。



お願い

- 使用する布によって、模様がくずれことがあります。実際に使用する布地と糸で試しひいをし、仕上がりを確認してから本ぬいをしてください。

上糸を通す

1 針を取り付けます。

※ 上糸・布地の種類に適した針を使用してください。針の取り付け方法は、ミシンの取扱説明書を参照してください。

2 押えを取り付けます。

※ 使用する押えについて詳しくは、p.3 「準備するもの」を参照してください。
また、押えの取り付け方法は、ミシンの取扱説明書を参照してください。

3 上糸を通します。

※ 上糸の通し方は、ミシンの取扱説明書を参照してください。

下糸の準備

ボビンワークをはじめる前に、ミシンの外かまを掃除して、ボビンワーク用の内かまに交換してください。

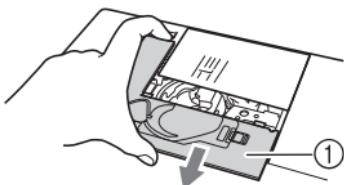
1 針と押さえを上げて、電源を切ります。

2 補助テーブルを取り外します。

3 針板カバーを外します。

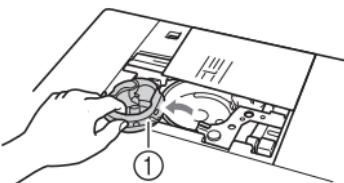
※ 針板カバーの取り外し方は、ミシンの取扱説明書を参照してください。

① 針板カバー



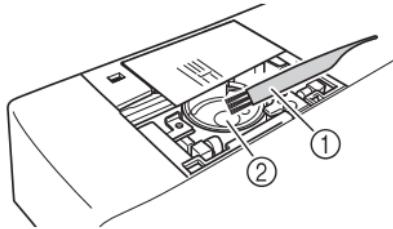
4 内かまを取り外します。

① 内かま



5 ミシンに付属のミシンブラシや掃除機で、外かまとその周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

- ① ミシンブラシ
- ② 外かま

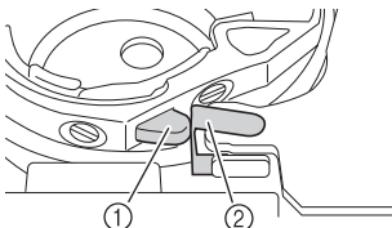


6 ボビンワーク用の内かま（灰色）を柔らかい布でふき、掃除をします。

7 右図のように内かまの突起とミシンのバネを合わせて、ボビンワーク用の内かま（灰色）を取り付けます。

※ 内かまの取り付け方法は、ミシンの取扱説明書を参照してください。

- ① 突起
- ② バネ



▲警告

- ・ ボビンワークをするときは、必ずボビンワーク専用の内かま（灰色）を使用してください。他の内かまを使用すると、糸がからまり、ミシンが故障する恐れがあります。
- ・ 内かまは正しく取り付けてください。内かまが正しく取り付けられていない状態でぬうと、糸がからまり、ミシンが故障する恐れがあります。



お願い

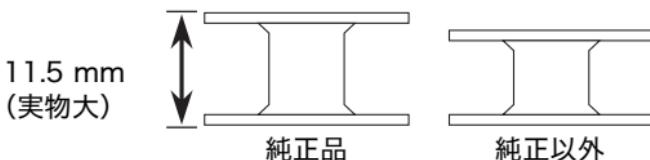
- ボビンワーク用の内かま（灰色）はボビンワーク専用です。ボビンワークをぬった後は、「下糸の準備」の手順に戻ってボビンワーク用の内かま（灰色）を取り外し、外かまを掃除してから、通常の内かま（黒色）を取り付けてください。

8 下糸を手でボビンに巻きます。右図の量（約 80%）まで巻いたら、糸端をはさみで切ります。



▲警告

- 付属品または別売りの純正ボビンを使用してください。純正以外のボビンを使用すると、ケガ、故障の原因となります。



お願い

- ゆっくりと均等に糸を巻いてください。
- ねじれのないよう下糸を巻くと、仕上がりがきれいになります。

9 巻きはじめの糸がボビンの端からでている場合は、巻き始めの糸端をはさみで切れます。



① 巻き始めの糸端

▲ 警告

- 糸がボビンの端から出ていると、糸がからんで針が折れる恐れがあります。

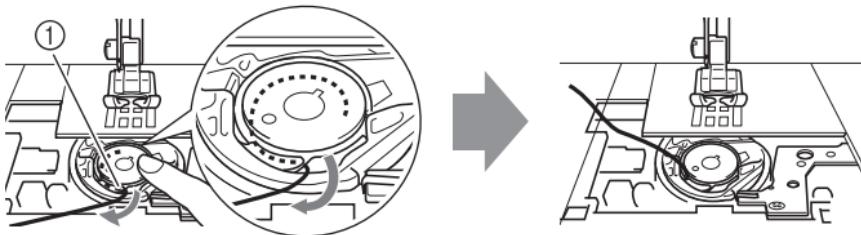
10 下糸を巻いたボビンをセットします。

※ 下糸の種類によって、下糸にテンションをかける場合と、テンションフリーにする場合があります。

■ 下糸にテンションをかける場合

糸が左巻きになるように、ボビンを内かまにセットします。

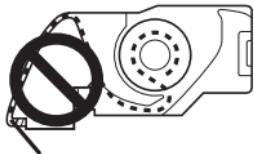
下図のように板ばねにしっかり糸を通してください。



① 板ばね

▲ 警告

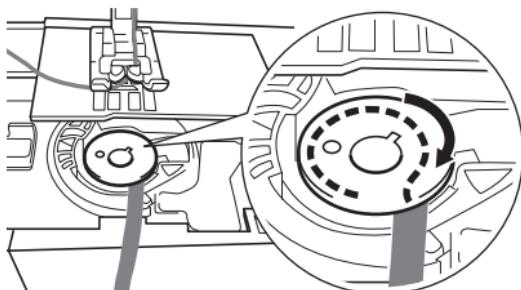
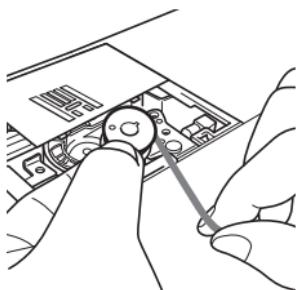
- 下糸をボビンに巻くとき、下糸がほつれていないことを確認してください。下糸がほつれている状態でぬうと、内かまの板ばねに糸がひっかかり、糸がからまりミシンが故障する恐れがあります。
- 針板カバーのミゾやカッターを使用しないでください。使用すると正しく下糸がセットされません。



■ 下糸テンションフリーにする場合

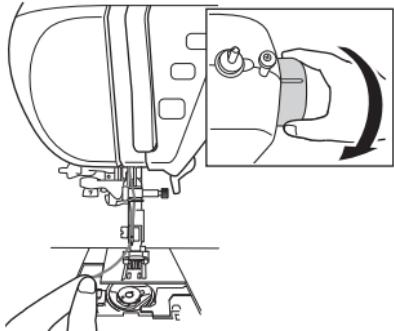
試しおいたときに、下糸調子が強すぎて、糸調子を調節をしてもうまくぬえない場合（p.22 「下糸の糸調子を調節する」）、板ばねに糸をかけないでぬってください。

右手で糸端を持ちながら、左手でボビンを持ち、糸が右巻きになるようミシンにセットします。

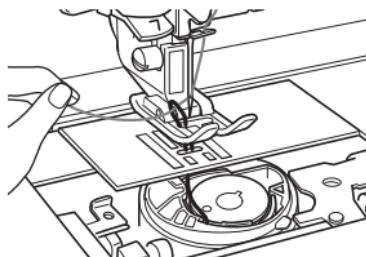


11 下糸の端を約 8 cm 引き出します。

12 上糸を軽く持ち、プーリーを手前に回します。プーリーを一回りさせて、針があがったら、図の位置でとめます。

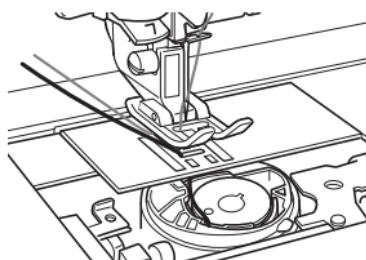


13 上糸を引き上げて、下糸を針板の上に引き出します。
→ 下糸が針板の穴から輪になって出てきます。



14 引きあがってきた下糸を、針板の上に糸端が出るまでピンセットなどで引き上げてください。

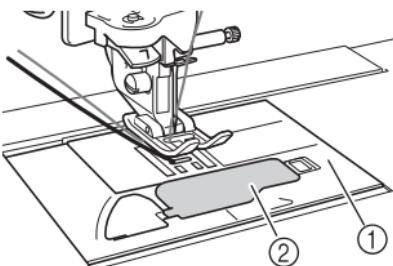
15 上糸と下糸をそろえて、押えの下からミシンの後ろ側へ 10 cm ほど引き出します。



16 針板カバーとタブ付き針板ふたを取り付けます。

- ① 針板カバー
- ② タブ付き針板ふた

※ お手持ちのミシンに付属の針板ふたと同じ形のタブ付き針板ふたを使用してください。針板カバーの取り付け方法は、ミシンの取扱説明書を参照してください。



▲警告

- ・ ボビンワークをするときは、必ずタブ付き針板ふたを使用してください。他の針板ふたを使用すると、糸がからまり、ミシンが故障する恐れがあります。



お願い

- ・ 針板カバーを取り付けるとき、針板カバーに糸をはさないでください。

17 補助テーブルを取り付けます。



お願い

- ・ 補助テーブルを取り付けるとき、補助テーブルに糸をはさないでください。
- ・ 下糸を新しく取り替えるときは、もう一度 p.6 「下糸の準備」手順 1 から操作をやり直してください。下糸を確実にセットするために、手順に従って操作してください。

→ これで上糸と下糸の準備が完了しました。

ボビンワークでぬう

布地を準備してぬう

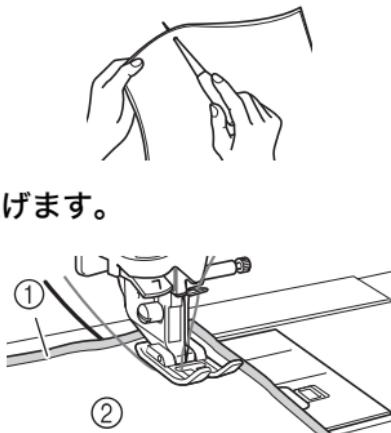


お願い

- 実際に使用する布地と糸で試しぬいをしてください。
- 選択した模様や糸の種類によって、下糸がからむ場合があります。その場合、ただちに縫製を中止して、ミシンの電源を切り、からんだ糸をハサミで切り離した後、外かまと内かまを掃除してください。(p.6 「下糸の準備」)

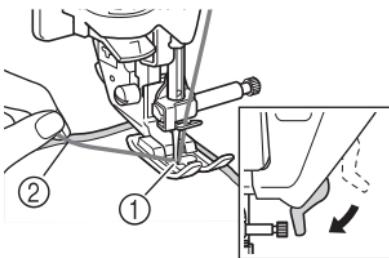
- 1 破り取れる接着芯を布の上側（裏側）にアイロンで軽く接着します。CD-ROMに収録されているテンプレートの図案を使用して、フリーモーションぬいをするときは、p.18「ボビンワークをフリーモーションでぬう」を参照して、布地の準備をしてください。
- 2 ぬい始めの位置で下糸を引き上げるために、目打ちなどで穴を開けます。
- 3 押えレバーを上げて、抑えを上げます。
- 4 布地の裏側を上にして、布をミシンにセットします。

- ① 布地の裏側
② 接着芯



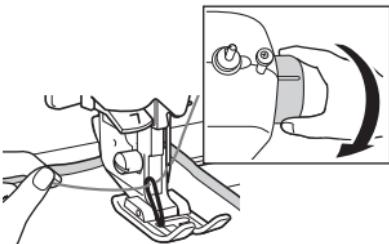
5 プーリーを回して、目打ちで開けた穴に針をあわせ、上糸を押えの上に出し、手で軽く持ちながら、押えを下げます。

- ① 目打ちの穴
- ② 押えの上の上糸



6 上糸を軽く持ち、プーリーを手前に回します。このとき、プーリーの印が図のように上にくるまで回します。

→ 布地の穴を通して、下糸の輪が上がりってきます。



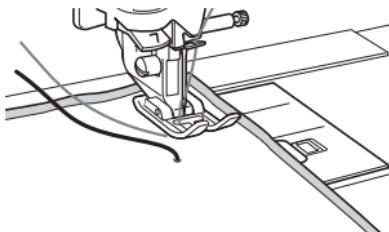
7 押えレバーを上げて、引きあがってきた下糸を、ピンセットなどで引き上げて、布の上に糸端を出してください。



お願い

- 下糸を引くときは、穴の位置が動かないように、布地を押えてください。

8 上糸と下糸をそろえて、押えの下から後ろ側へ引き出します。



9 ミシンの電源を入れます。

10 模様を選択します。



お知らせ

- 仕上がりをよくするために、ぬい目の長さと振り幅は大きめの数値に設定してください。選択した模様によっては、ぬい目の長さや振り幅を調節できない場合もあります。詳しくは、ミシンの取扱説明書を参照してください。
- 布地の種類によっては、ぬい目が詰まる場合があります。複雑でない模様を選択することをお薦めします。仕上がりを確認するために必ず試しぬいをしてください。

複雑でない模様の例 : 、、

11 上糸の糸調子を調節します。

※ 上糸の糸調子の調節方法は、ミシンの取扱説明書を参照してください。



お知らせ

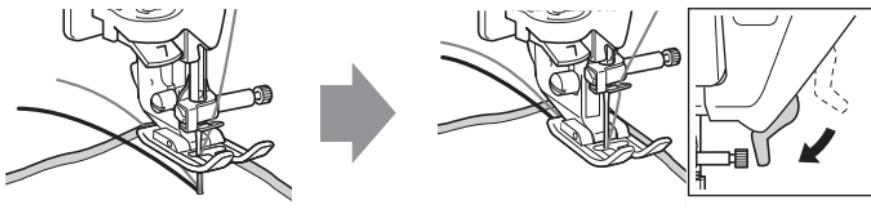
- 通常よりも上糸の糸調子を強めにすることを推奨します。

12 お手持ちのミシンに自動糸切り機能や自動止めぬい／返しぬい機能が搭載されている場合は、それらの機能を解除してください。

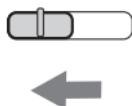
▲ 警告

- 縫製をスタートする前に、自動糸切り機能が解除されていることを確認してください。万が一、自動糸切りを設定したまま縫製をスタートすると、糸がからんでミシンが故障する恐れがあります。

13 ミシンの後ろ側で上糸を手で軽く持ちながら、プーリーを手前に回して、針をもう一度目打ちの穴に落とし、押えレバーを下げます。



14 ぬう速さを低速にして、上糸を押えの後ろ側で軽く持ちながらミシンをスタートさせます。数針ぬった後、上糸を離します。



- ぬう前に、下糸の量が十分にあることを確認してください。

15 ぬい終わり位置まできたら、ミシンをストップします。

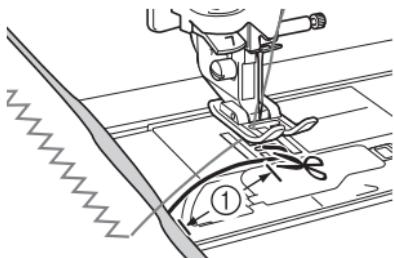


- ぬい終わりに返しぬい / 止めぬいをしないでください。また、ぬい終わりに糸切りスイッチ（搭載モデルのみ）を使用しないでください。糸が絡んで針が折れる恐れがあります。また、下糸を布の裏側に引き上げにくくなります。

16 針と押えを上げます。

17 糸端を約 10 cm 残して、糸をはさみで切れます。

① 10 cm



糸の始末をする

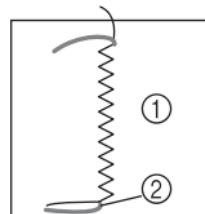
1 ぬい終わりの下糸の端を、布地の裏側に引き出します。

- ① 布地の裏側
② 下糸



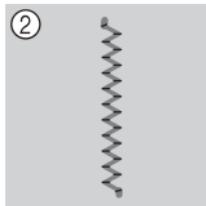
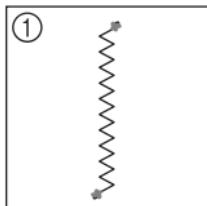
お願い

- 糸が引き上げにくいときは、リボン刺しゅう用の針を使用して布の裏側に下糸を引き出してください。もしくは目打ちを使用して、下糸を引き出してください。



2 布地の裏側から、引き上げた下糸を上糸と結び、余った糸をハサミで切れます。

- ① 布地の裏側
② 布地の表側





お願い

- 下糸と上糸を結んだ後、結び目がほどけそうな場合は、結び目を布用ボンドで固めてください。

3 きれいに仕上がるときは、上糸と下糸の糸調子を調整して、もう一度試しぬいをしてください。

※ 上糸と下糸の糸調子の調整方法は、p.22 「糸調子を調整する」を参照してください。

ボビンワークをフリーモーションでぬう



お願い

- ボビンワークをフリーモーションでぬうときは、p.13 以降の「ボビンワークでぬう」の操作を行ってください。
- ミシン付属のキルト押えを使用してください。キルト押えをお持ちでない場合、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）0120-340-233」にお問い合わせください。

接着芯に下書きした、テンプレートやオリジナルの図案がフリーモーションで楽しめます。接着芯は布の裏側に貼り、接着芯側を上にしてぬってください。

本製品に付属の CD-ROM にはフリーモーション用のテンプレートデータが収録されています。テンプレートの図案については、p.20 「フリーモーション用テンプレート一覧」をご覧ください。

1 テンプレートからお好みの図案を選んで、印刷します。

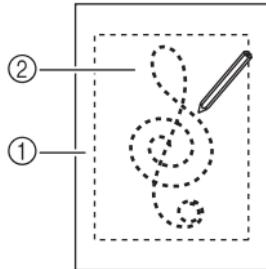


お願い

- テンプレートは、原寸で印刷してください。拡大して印刷すると、縫製中に下糸が足りなくなる場合があります。

2 布に貼り付けない面を上にして、接着芯をテンプレートの上に置き、図案を写します。

- ① 接着芯（布に貼り付けない面が上）
- ② テンプレート



お願い

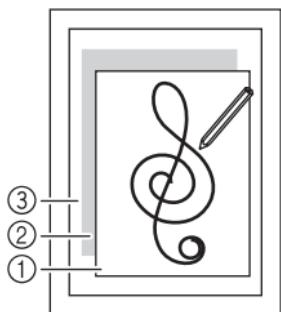
- ・ テンプレート上の矢印は、縫製方向を示しています。図案と一緒に接着芯に書き写してください。



お知らせ

- ・ 接着芯をテンプレートの上に重ねて図案を写すことができない場合は、布地の裏面に接着芯を貼った後、市販の布用複写紙を置いて、紙の上から鉛筆でデザインをなぞってください。

- ① テンプレート
- ② 布用複写紙
- ③ 接着芯（布地の裏側）



3 布の上側（裏側）に接着芯を、軽くアイロンで接着します。

4 キルト押えの下に置き、フリーモーションで図案をなぞるよう布地を動かしてねいます。

フリーーション用テンプレート一覧



お知らせ

- ・ボビンワークは布地の裏を上にしてぬうので、テンプレートの図案は反転されています。

① 布地の裏側（テンプレートの図案）

② 布地の表側（仕上がり）

No.1

No.01.pdf



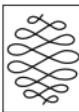
①



②

No.2

No.02.pdf



①



②

No.3

No.03.pdf



①



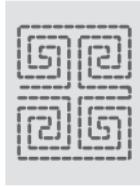
②

No.4

No.04.pdf



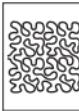
①



②

No.5

No.05.pdf



①



②

No.6

No.06.pdf



①



②

No.7

No.07.pdf



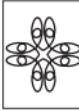
①



②

No.8

No.08.pdf



①



②

No.9

No.09.pdf

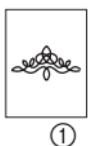


①



②

No.10
No.10.pdf



①

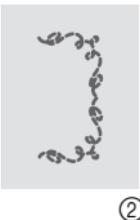


②

No.11
No.11.pdf



①



②

No.12
No.12.pdf



①



②

No.13
No.13.pdf



①



②

No.14
No.14.pdf



①



②

No.15
No.15.pdf



①



②

No.16
No.16.pdf



①



②

No.17
No.17.pdf



①



②

No.18 ※
No.18.pdf



①



②

No.19 ※
No.19.pdf



①



②

No.20
No.20.pdf



①



②

※ テンプレート上の矢印は、縫製方向を示しています。デザインと一緒に接着芯に書き写してください。

糸調子を調整する

試しみいで仕上がりを確認した後、必要に応じて糸調子を調節してください。調節後は試しみいをして、調節結果を確認してください。

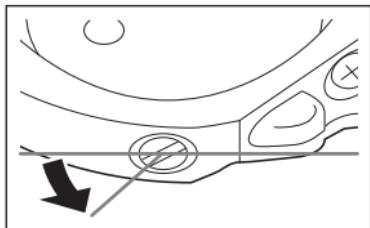
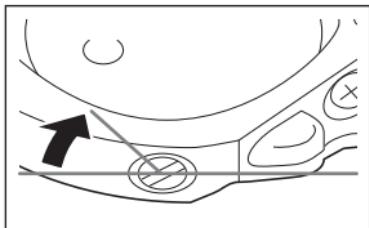
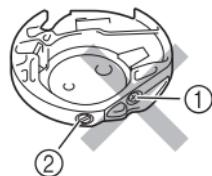
上糸の糸調子を調節する

通常よりも強めの上糸調子を推奨します。詳しくは、ミシンの取扱説明書を参照してください。

下糸の糸調子を調節する

上糸調子を調節しても、仕上がりがよくならない場合は、下糸の糸調子を調節します。ボビンワーカ用の内かま（灰色）のマイナスねじを回して、下糸の糸調子を調整できます。

- ① プラスねじは回さない
- ② マイナスドライバー（小）を使用して調節する



下糸調子を強くする場合は、マイナスねじを時計回りに 30-45 度回してください。

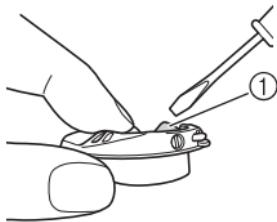
下糸調子を弱くする場合は、マイナスねじを反時計回りに 30-45 度回してください。



お願い

- ボビンワーク用内かま（灰色）のマイナスねじを回すと、図のように板ばねが押し上げられることがあります。このようなときは、マイナスドライバーで軽く板ばねを押して、内かまの上面よりも下に板ばねを下げてから内かまをミシンに入れてください。

① 板ばね



▲警告

- ボビンワーク用内かま（灰色）のプラスねじを調節しないでください。ミシンが故障する原因になります。
- マイナスねじが回しにくい場合は、無理に回さないでください。ねじを回しすぎたり、無理に回すと、回す方向に関わらず内かまの破損の原因になります。破損した内かまを使用すると、正しい糸調子を保つことができません。



お願い

- 調節しても下糸調子が強い場合は、ボビンを内かまにセットするときに、板バネに糸をかけないでください。(p.10「下糸テンションフリーにする場合」参照)

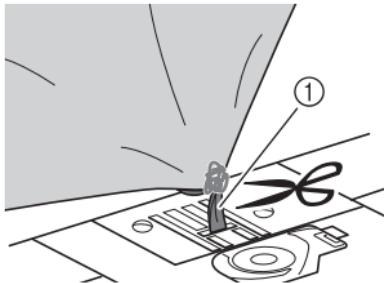
困ったときは

次の項目を確認してください。症状が改善されないときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）0120-340-233」にお問い合わせください。

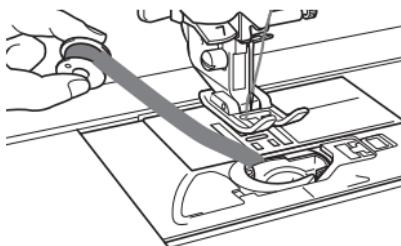
- 誤ってミシンの自動糸切り機能で糸を切り、下糸がミシンにひっかかった（自動糸切り機能搭載のミシンのみ）

- 1 針板の上で布側の糸を切つて、布を外します。

① 糸

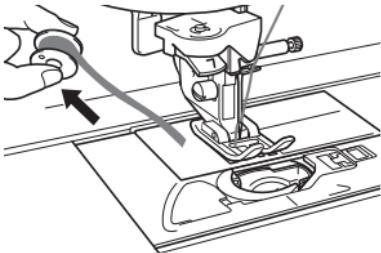


- 2 ボビンを取り出して、ミシンの左側に出し、下糸を軽く引きます。



- 3 押えを下げます。

- 4 もう一度、糸切りスイッチを押して、自動糸切り機能を動作させながら、ボビンを左側に引き、下糸を引き抜きます。



▲警告

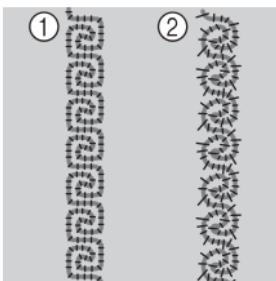
- ・糸を無理にひっぱらないでください。ミシンが故障する原因になります

■ 模様がくずれる

p.22 「糸調子を調整する」を参照し、上糸調子を強くしてください。それでも模様がくずれる場合は、下糸調子を弱くしてください。

例：飾り模様

- ① 正しい糸調子
- ② 上糸調子が弱すぎる、または下糸調子が強すぎる



■ 内かまの板ばねに下糸がひっかかる

テンションフリーでぬってください。(p.10 「下糸テンションフリーにする場合」)

111-001
XE9629-001
Printed in Taiwan